

## 選択必修科目（1年次）

# 麻酔科

### I. 一般目標

患者の安全を守り、疼痛を緩和するという麻酔医の責務を取得するために、手術患者の麻酔管理を通して必要な知識を理解し、必要な手技を習得する。

### II. 担当する科目

麻酔科

### III. 研修期間

2カ月（期間内に2週間の外科研修を行う：時期は指導責任者と協議する）

### IV. 指導スタッフ

	氏名	職名	医師登録年月	指導医講習
指導責任者	坪川 雅子	麻酔科部長	1988.5	◎

### V. 基本的な指導方法

1. 指導責任者の指導のもとに、各種の手術麻酔を担当する。
2. 指導責任者とともに、術前術後ラウンドを行い、周術期における患者管理を行う。

### VI. 基本的週間スケジュール

(担当指導医)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
月		麻酔科外来（坪川）				麻酔実習（坪川）				
火		麻酔科外来（坪川）				麻酔実習（坪川）				
水		麻酔科外来（坪川）				麻酔実習（坪川）				
木		麻酔科外来（坪川）				麻酔実習（坪川）				
金		麻酔科外来（坪川）				麻酔実習（坪川）				
土										

### VII. 行動目標（→p12）

## VIII. 経験目標 (→ p13~20)

### A. 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 医療面接：患者・家族との信頼関係を構築し、診断治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために、
  - ・医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解できる。
  - ・病歴の聴取と記録ができる。
  - ・患者・家族への適切な指示・指導ができる。
- (2) 基本的な身体診察法：病態の把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記録するために、
  - ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握を含む）ができ、記録できる。
  - ・頭頸部の診察（眼瞼・結膜）ができ、記録できる。
  - ・胸部の診察ができ、記録できる。
  - ・腹部の診察ができ、記録できる。
- (3) 基本的な臨床検査：病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体観察から得られた情報をもとに必要な検査を解釈するために、
  - ・以下の検査を自ら実施し、結果を解釈できる。  
血液型判定・交差適合試験、心電図（12誘導）、動脈ガス分析
  - ・以下の検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。  
一般尿検査、血算・白血球分画、血液生化学的検査、肺機能検査、単純X線検査
- (4) 基本的手技：基本的手技の適応を決定し、実施するために、
  - ・気道確保を実施できる。
  - ・人工呼吸を実施できる。
  - ・注射法（皮内・皮下・筋肉・点滴・静脈確保。中心静脈確保）を実施できる。
  - ・採血法（静脈血・動脈血）を実施できる。
  - ・局所麻酔法を実施できる。
  - ・気管内挿管を実施できる。
- (5) 基本的治療法：基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために、
  - ・薬剤の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。
  - ・基本的な輸液療法ができる。
  - ・輸血（成分輸血を含む）による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。
- (6) 医療記録：チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、
  - ・診療録をPOSに従って記載し、管理できる。
  - ・処方箋、指示箋を作成し、管理できる。